
防災支援の取り組みについて

2025年6月23日
東京電力ホールディングス株式会社
新潟本社

はじめに

- ✓ 新潟県内より、「新潟県が日本有数の豪雪地帯であることを踏まえた対応」や、能登半島地震を受けた「家屋の損壊に備えた安全な避難所の整備」を求める声が寄せられている
- ✓ 本年6/11に開催された「柏崎刈羽地域原子力防災協議会」で、国から除排雪体制や屋内退避環境の強化を進める方針が示された
- ✓ 当社は、避難計画の実効性向上に最大限貢献していくことが、極めて重要であると考えており、同協議会において「除排雪体制の強化」や「屋内退避施設の環境整備」に関する支援を表明
- ✓ 加えて、自然災害時の支援として、当社施設の一時避難場所としての開放や、PAZ・UPZ自治体が設置する避難所への支援体制の整備を検討しており、今後、関係機関や自治体などの皆さまのご意見を伺いながら、具体的な検討を進める

【防災支援の取り組み】

＜原子力災害支援＞

- 除排雪体制の強化に関する支援 (P2) **新規**
- 屋内退避施設の環境整備に関する支援 (P3) **新規**
- 避難計画の実効性向上に向けた取り組み (P8:参考)

＜自然災害支援＞

- 一時避難場所として当社施設を開放 (P4) **新規**
- 避難所支援体制の整備 (P5~6) **新規**
- 長岡技術科学大学との共同研究 (P9:参考)
- 柏崎レジリエンスセンターの建設 (P10:参考)

1-1. 原子力災害支援：除排雪体制の強化に関する支援 新規

- ✓ 原子力事業者として、原子力事故に備えた避難計画の実効性向上に貢献するため、「除雪車両の増強」、「避難道路における急勾配区間への消融雪施設の設置」、「監視カメラの設置」といった、国が進める除排雪体制の強化を支援していく
- ✓ 今後、国が進める除排雪体制の強化の取り組みを補完できるよう、当社による応分の費用負担を含め、最大限協力していく
- ✓ 引き続き、国や関係機関の皆さまのご意見を伺いながら、具体的な支援を進めていく

〔除排雪体制の強化に関する支援（応分の費用負担を含む）〕

除雪車両の増強／避難道路における急勾配区間への消融雪施設の設置／監視カメラの設置 等



除雪車両イメージ



消融雪施設イメージ



監視カメライメージ

出典（監視カメライメージ）：国土交通省北陸地方整備局ホームページ（〔パンフレット資料〕〔雪に関する写真〕〔直轄道路の積雪状況〕
[\[https://www.hrr.mlit.go.jp/road/toprunner/snow_pic_cate02.html\]](https://www.hrr.mlit.go.jp/road/toprunner/snow_pic_cate02.html)）

1-2. 原子力災害支援：屋内退避施設の環境整備に関する支援

新規

- ✓ 原子力事業者として、原子力事故に備えた避難計画の実効性向上に貢献するため、指定避難所となる学校体育館に、気候（寒暖）を問わず、なるべくご負担を少なく屋内退避できる環境整備が早期に図られるよう支援していく
- ✓ 具体的には、PAZ・UPZにおいて、指定避難所となる学校体育館の「空調設置（冷暖房）」や「断熱性向上」に必要な整備費用について、国と連携しながら、各自治体の費用負担軽減に貢献していく
- ✓ 今後、国や関係機関の皆さまのご意見を伺いながら、具体的な支援を進めていく

[屋内退避施設の環境整備に関する支援（自治体の費用負担軽減）]



空調設備イメージ

出典（空調設備イメージ）：文部科学省ホームページ（〔公立学校施設の空調（冷房）設備の今後について〕〔参考資料：屋内運動場空調設備設置に係る断熱化事例集〕〔https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyosei/mext_00943.html〕）

2-1. 自然災害支援：一時避難場所として当社施設を開放

新規

- ✓ 地震や津波などの自然災害時における一時避難場所として、災害に強い当社施設や社屋を開放
- ✓ 「サービスホール」については、周辺地域からのご要望も踏まえ、2025年5月に先行して運用を開始しており、現在建設中の「柏崎レジリエンスセンター」「柏崎新本社事務所」についても、地域の皆さまのご意見を伺いながら、一時避難場所としてご活用いただけるように準備を進めていく
- ✓ その他の県域においても、当社施設の開放に向けて準備中

[当社施設の開放（一時避難場所）]

柏崎刈羽地域

① サービスホール

2025/5～ 運用開始



発電所近接（刈羽村）

- 海拔65mの高台に位置しており、津波等の自然災害時における避難先として駐車場を開放

② 柏崎新本社事務所

2026年度 竣工予定



柏崎駅前

- 柏崎駅前、市役所近傍の立地を活かし、地域共生施設を併設
- 平時の地域活用も含め検討中

③ 柏崎レジリエンスセンター

2026年度 竣工予定



柏崎市 田尻工業団地内

- 緑地エリア等に防災機能を整備予定
- 施設の利活用については、新潟工科大との産学連携により検討中

3 施設の連携

- 各施設の特質や強みを活かし、自然災害発生時の支援等を実施
- 施設間の資機材融通も検討中

[その他 検討中の内容（例）]

- 仮設トイレの設置
- 炊き出しなど、食事の提供 等

新潟県域

④ 湯沢事務所

湯沢町



- 自然災害発生時の避難場所として敷地を開放

2010/3～ 運用開始

⑤ 信濃川電力所

小千谷市



- 別館2階の開放等を検討・準備中

準備中

⑥ 信濃川事業所

津南町



- 事務所1階の開放等を検討・準備中

準備中

2-2. 自然災害支援：避難所支援体制の整備（1）

新規

- ✓ 自治体が設置する避難所に対し、仮設トイレや発電機など資機材の設営から撤去まで、一元的に対応する体制を整備し、2026年1月より展開予定
- ✓ 日中は、避難所に当社社員を派遣し、設備の故障や不具合にも迅速に対応することで、自治体職員や地域の皆さまのご負担軽減に寄与
- ✓ 避難所支援の対象は、PAZおよびUPZ内の自治体とし、今後、自治体のご意見やニーズをお伺いしながら、内容の具体化を進めていく

【避難所支援体制の整備（概要）】

◆ ご要請からご支援までの流れ



- 資機材設営、メンテナンス、撤去まで一元的に対応
- 避難所支援を通じ、自治体職員や地域のみなさまのご負担軽減に寄与
- 避難所支援の対象は、P A ZおよびU P Z内の自治体
- 資機材の設営や撤去方法、実費負担の扱いなどについて、今後、自治体と協議していく



仮設トイレ設置の様子

2-2. 自然災害支援：避難所支援体制の整備（2）

新規

- ✓ 災害発生時に避難所へ資機材を速やかに輸送できるよう、当社と協業関係にある旭ハウス工業(株)が新潟県内に仮設トイレ等の資機材保管場所を設置する予定

〔避難所支援体制の整備（資機材一覧イメージ）〕



仮設トイレ

FG快適トイレ

ユニバーサルトイレ

仮設：50台 / FG快適：40台 / ユニバーサル：10台



ウォーターチェンジャー®（水）：10台



発電機：都度調達



出展：再処理機器株式会社

エアシェルター：4張



シャワールーム：導入を検討中



スポットエアコン：都度調達

以下、参考

参考1. 原子力災害支援：避難計画の実効性向上に向けた取り組み

- ✓ 2020年に新潟県と締結した「原子力防災に関する協力協定」に基づき、住民避難を支援する要員や車両の確保等、協力体制を構築すると共に、新潟県原子力防災訓練への参加等を通じ、協力体制等の確認・改善を継続的に実施

要配慮者の搬送支援

自治体からの要請に基づき社会福祉施設に入所する要配慮者等の移動を支援



福祉車両



訓練風景

避難退域時検査場所支援

避難退域時検査場所等の運営を支援



車両検査



住民検査

生活物資等の支援

事業所・本社等に備蓄している食料、生活物資等を支援

備蓄状況

食料品	60,000食
飲料水	60,000 L
毛布	3,000枚

避難支援体制の構築

原子力災害時におけるPAZ・UPZ内の住民避難を支援するため、東京電力グループ全体で、

約2,500名の支援体制

原子力事業者間の協力協定により、他事業者からも要員・資機材等を支援

放射線防護資機材等支援

避難・一時移転等において、放射線防護資機材等を支援



緊急時モニタリング支援

緊急時モニタリングの測定等に協力
・可搬型モニタリングポスト
・モニタリングカー 等



県主催の防災訓練への参加

要員の力量・対応力の向上

<至近の新潟県・原子力防災訓練 参加実績>

2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
約140名	約150名	約180名	約210名※	約170名

※国が主催する総合防災訓練として大規模に実施



参考 2. 自然災害支援：長岡技術科学大学との共同研究

- ✓ 2020年2月、当社と長岡技術科学大学は、防災・減災に関する共同研究プロジェクトとして、包括連携協定を締結し、「ウォーターチェンジャー®」や「防災ワクチン®ブレーカーキット」の開発など、「防災・減災及びレジリエンス」に関する共同研究を進めている
- ✓ 水の浄化装置である「ウォーターチェンジャー®」は、新潟県内企業のユニトライク（株）で商品化され、昨年1月に発生した能登半島地震の被災地などでも活用
- ✓ 実物の電気ブレーカーを用いて、災害時に発生する通電火災のメカニズムを学び、災害復旧時に安全に早く電気を使うための手法を学習できる「防災ワクチン®ブレーカーキット」を新潟県内企業の船山（株）にて商品化、新潟県内の小・中学校を中心に防災授業を行うなどして、地域のレジリエンス向上に寄与

＜ウォーターチェンジャー®＞



能登半島地震の被災地での活用



工事現場等での活用

＜防災ワクチン®ブレーカーキット＞

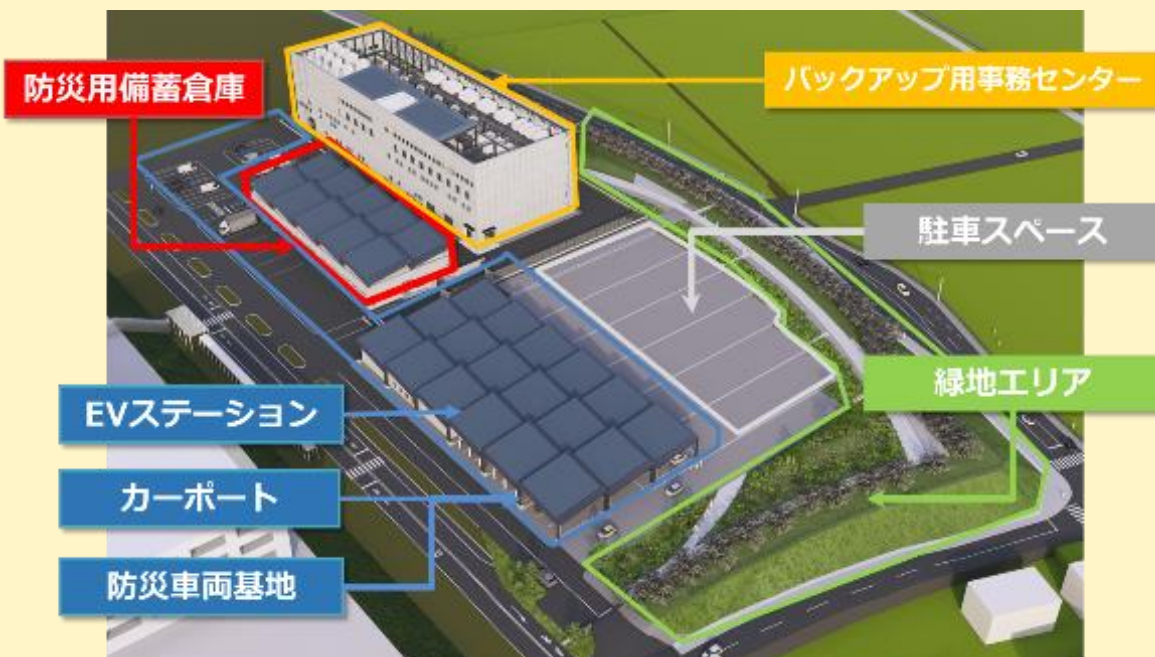


防災教育授業や地域の防災イベント等で活用

参考 3. 自然災害支援：柏崎レジリエンスセンターの建設

- ✓ 近年激甚化する災害に備え、電力の安定供給など、事業の継続に必要となる災害対応を行うバックアップ拠点や資機材を備蓄する施設として、首都圏と同時被災するリスクの少ない日本海側の柏崎市田尻工業団地内に、「柏崎レジリエンスセンター」を建設中
- ✓ 平時には、防災訓練・研修などで活用いただくことを検討中
- ✓ 自然災害時には、防災用備蓄倉庫に保管された非常食等を提供するほか、防災機能が整備された広場を活用いただくことで、地域の「防災力向上」「安全・安心な暮らし」に貢献していく

＜柏崎レジリエンスセンター（活用イメージ）＞



【平時】防災訓練や研修等での活用



【自然災害時】防災機能が整備された広場等を活用